

次回例会

期日：7月22日（日）
夜7時～8時半

プログラム

お勤め・法話

話し合い

仏教讃歌練習

※これまで練習した

歌のおさらい

放談会（気楽に雑談しましょう）

◎話し合いテーマ

「正信偈を味わう⑦」

生きている楽しいと思うことの一つ

それは人間が人間と逢って

人間について話をする時です

人間が人間と逢って話をする時です

相田みつを

仏教用語の解説⑤
《諦め（あきらめ）》

「あきらめ」など、日常会話ではよく使う言葉です。茶碗をふとしたはずみで割ってしまった時など、「あきらめきれない」と嘆きます。断ち切れない失った物事への思いがまた、「医者になることをあきらめた」という意味合いです。断念したという「あきらめ」という言葉は、どちらかというと人間の消極的な心をあらわす言葉として使われていきますが、実は本来の「諦め（あきらめ）」とは、仏教用語で「明らかに積極める」という意味で、とても積極的で大事な言葉なのです。初めて仏法を説かれたのが「四諦」という教えです。これが、迷いの中にいる私達が、どうすれば救われるかを、四点において明らかにされたものです。①一点目は、私達の人生は苦であること（苦諦）。

②二点目は、その苦の原因は自らの煩惱によること（集諦）。③三点目は、その煩惱を滅す（苦の滅諦）。④四点目は、苦のない境地に到達するには正しい行を実践しなければならぬこと（道諦）。根本原因を明らかにし、問題を解決するための方策を明らかにする。大切なことなのです。でも大切なことが、私達にとってもお茶碗が割れたことを嘆く減する「かたちあるもの」は必ずきまえる、今ある命の尊さを改めて感じる。ことがある。「あきらめ」することであり、将来の夢を断念するときは、自分の才能と、努力の限界を見極め、もつと自分にはじめた夢が見極められたとき、できるのだと思います。この仏教の大切なキーワード、自分の人生の一つひとつの出来事において当てはめてみることは、大切なことだと思えます。しっかりと「あきらめる」ことのできる人。生を送りたいものです。



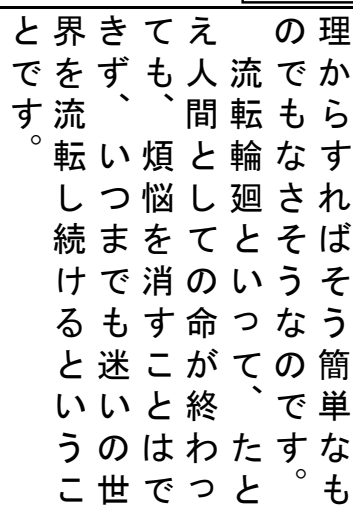
前号からのつづき

この煩惱が有る限り悩みが尽きないのです。煩惱を断ち切つて、あらゆるものごとを、正しく見る（正見）ことができるとき、すべての苦惱から解放されるのだと仏教は教えています。

凡夫である私達には、完全な「正見」を持つことなどはできませんが、できるだけ仏さまの願いに近づこうとする努力は必要であらうと前月号で述べました。

それでは、私達には完全な「正見」をもつこと、さとのりの世界へたどり着くことなどは出来ないのでしょうか？

一人間死んだらお
しまいや」と仰る方
もおられます。



そのため、人間として生きて
いる内に煩惱を断ち切る
うと、昔から多くの仏教徒
が一生懸命に修行をされて
きたのです。

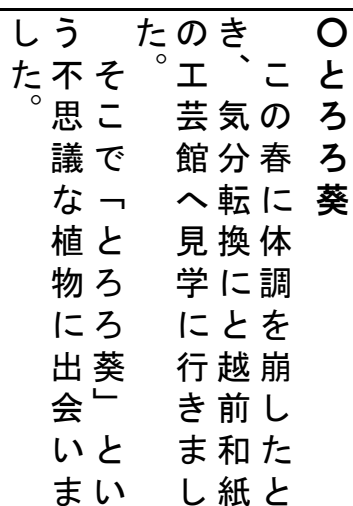
親鸞聖人も20年間比叡
山で修行をなされました。

たのが、どうしても煩悩の火を消すことのできない自分の姿だったのです。

中「でそんな私だからこそ
「まあせよ」と呼びかけて
くださる南無阿弥陀仏であ
ったのだと気づかれたので
ありました。

「しかもその呼び声は、
煩悩を断ち切れないなら

断ち切らなくとも良い」「そのまんまで引き受ける」との呼び声だったのです。



維質から作られますが、この粉々になった木の繊維質を紙として繋ぎ合わせるのに、昔から日本では「とろろ葵」という植物の粘液が使われています。

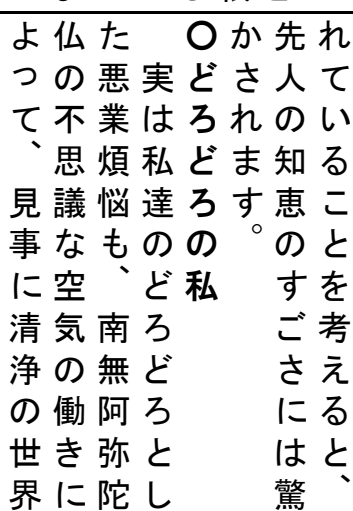
の根っこからとれる粘液なの
のですが、これがまことに
不思議な粘液なのです。
繊維質を漉（す）いて紙
にする時にはとても粘っこ
いのですが、これが空気に

さの性質に変わつてしま
うのです。

ですから出来上がった紙
はさらつとして、重なつた

紙と紙とがひつくこともないのです。

なんと都合の良
いもので、この植物
が千年もの前に見出
され、いまだに使わ



へと変えられるのです。
「とろろ葵」のどろどろ
の粘液が、どろどろのまん
まで空気に触れてさらさら
になるように、私達もどろ
どろの煩惱を持ったまんま
で、阿弥陀様のご本願の働

きにより 淨土に生まれさ
せて頂くのです。

親鸞聖人は御和讃で、
罪障功德の体となる
こほりとみずのごとくにて
こほりとおおきにみずおほし

と詠まれています。
氷が多ければ多いほど、
溶けたときの水も多いよう
に、私達の煩惱が深ければ

深いほど、阿弥陀様の徳も
大きいのです。

「とろろ菜」に、南無阿弥陀仏の働きを味あわせて頂きました。住職法話より

